白山市

番匠遺跡・番匠鎌田遺跡

２０１１

石　川　県　教　育　委　員　会

（財）石川県埋蔵文化財センター

番匠遺跡・番匠鎌田遺跡

2011

石川県教育委員会

(財)石川県埋蔵文化財センター

例　言

1　本書は番匠遺跡、番匠鎌田遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は白山市番匠町地内である。

3　調査原因は北陸新幹線建設（鉄道高架橋工事）であり、同事業を所管する独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4　調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成20（2008）年度から平成22（2010）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書作成・刊行である。

5　調査に係る費用は独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が負担した。

6　現地調査は平成20年度に実施した。調査遺跡・期間・面積・担当課・担当者は下記の通りである。

（1）番匠遺跡

期　間　平成20年6月27日～同年10月10日

面　積　1,300㎡

担当課　調査部県関係調査グループ

担当者　宮川勝次（主任主事）、森　由佳（嘱託調査員）

（2）番匠鎌田遺跡

期　間　平成20年4月28日～同年7月1日

面　積　700㎡

担当課　調査部県関係調査グループ

担当者　宮川勝次（主任主事）、森　由佳（嘱託調査員）

7　出土品整理は平成21（2009）年度に実施し、調査部関係調査グループが担当した。

8　報告書の作成・刊行は平成22年度に実施し、調査部特定事業調査グループが担当した。執筆・編集は、宮川勝次（企画部企画・普及グループ主任主事）が行い、第2～4章の一部については、森由佳の協力のもと改稿、掲載した。

9　調査には下記の機関、個人の協力を得た（五十音順、敬称略）

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、白山市教育委員会

10　調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

11　本書についての凡例は下記のとおりである。

（1）方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。

（2）水平基準は海抜高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。

（3）出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

（4）遺物実測図について、須恵器は断面黒塗りとした。

（5）引用・参考文献は第3章文末に一括して掲載した。

目　次

第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘作業の経過 …… 1
　第３節　出土品整理、報告書作成・刊行 …… 2

第２章　遺跡の位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　番匠遺跡 …… 5
　第１節　概　　要 …… 5
　第２節　遺　　構 …… 5
　第３節　遺　　物 …… 13

第４章　番匠鎌田遺跡 …… 18
　第１節　概　　要 …… 18
　第２節　遺　　構 …… 18
　第３節　遺　　物 …… 18

第５章　ま　と　め …… 21

挿図目次

第１図　調査区位置図 …… 2
第２図　遺跡位置図 …… 3
第３図　周辺の遺跡 …… 4
第４図　番匠遺跡調査区全体図・遺構図 …… 8
第５図　遺構図１ …… 9
第６図　遺構図２ …… 10
第７図　遺構図３ …… 11
第８図　遺構図４ …… 12
第９図　出土遺物実測図 …… 15
第10図　出土遺物実測図 …… 16
第11図　番匠鎌田遺跡調査区全体図・遺構図 …… 19
第12図　遺構図 …… 20
第13図　遺構変遷図 …… 22

表目次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 4
第２表　土器観察表 …… 17
第３表　石製品観察表 …… 17

図版目次

図版1　番匠遺跡　遺構1
図版2　番匠遺跡　遺構2
図版3　番匠遺跡・番匠鎌田遺跡　遺構
図版4　番匠遺跡・番匠鎌田遺跡出土遺物

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

発掘調査は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構所管の北陸新幹線建設（鉄道高架橋工事）に係るものである。北陸新幹線は、東京を起点として高崎市、長野市、上越市、富山市、金沢市、福井市等を経由し、新大阪に至る延長約700kmの路線であり、このうち高崎・長野間は平成９年から営業運転が行われている。全線開通は、北陸地方と首都圏・関西圏を短時間で結び、経済・文化交流の発展に、多大な効果をもたらすものと期待されており、金沢・東京間が開通により２時間28分（現行３時間47分）とアクセスの向上が図られるものである。

本事業に伴い、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構からの依頼により、県教育委員会文化財課が試掘調査を実施した。試掘調査は平成19年10月22・23日に実施され、対象範囲の一部において、新規の埋蔵文化財（番匠遺跡・番匠鎌田遺跡）を確認した。そこで、事前に発掘調査を実施する必要が生じたことから、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構は、文化財課に発掘調査を依頼し、文化財課は財団法人石川県埋蔵文化財センターに委託した。

第２節　発掘作業の経過

発掘調査は県教育委員会文化財課からの委託事業として、財団法人石川県埋蔵文化財センター調査部県関係調査グループが担当し、平成20年４月28日から同年10月10日にかけて実施した。

平成20年４月28日に独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（金沢鉄道建設所）、県教育委員会文化財課、埋蔵文化財センターによる現地協議を実施し、工事計画、調査範囲、ユニットハウス設置場所・駐車場箇所等の確認を行った。５月20日に金沢保線区、鉄道・運輸機構、株式会社松陽建設（工事管理者）、県教委文化財課、埋文センターにより、施工及び事故防止計画等の確認を行い、特に、営業線近接に係る安全面や作業方法等が徹底され、22日からの作業着手が確認された。

調査は、番匠鎌田遺跡から着手した。６月２～６日にかけて、重機や作業員通行路として用水に仮橋を設置し、その後、重機による表土除去作業を行った。６日には遺構検出作業等を開始した。20日には写真測量（１回目）を実施し、調査を終了した。なお、写真測量は営業線近接区域に係るため、ポールによる撮影とした。24日からは埋め戻し作業を開始し、引き続き、番匠遺跡に着手した。７月１～３日かけて、東半部（13～20区東部）の表土除去作業を行った。その後、遺構掘削が終了した箇所から順次、22日に13～15区（２回目）、30日に16～20区（３回目）を対象に、写真測量を実施した。７月31日から東半部の埋め戻しと並行して西部（20区西部～22区）の表土除去作業を行った。その後、８月26日に写真測量（４回目）を実施した。

27・28日には遺構が密に重複し、未掘削であった箇所（22区西部）の補足作業を行った。９月１日から、残る23～25区の表土除去作業を行い、12日には写真測量（５回目）を実施した。16日からは機材等の撤収準備を開始し、以後、掘削機材のセンター搬入、ユニットハウス等の引き上げを行った。29日からは23～25区の埋め戻し作業・用水仮設橋の撤去を行い、10月10日に現地引き渡し、調査を終了した。

第３節　出土品整理、報告書作成・刊行

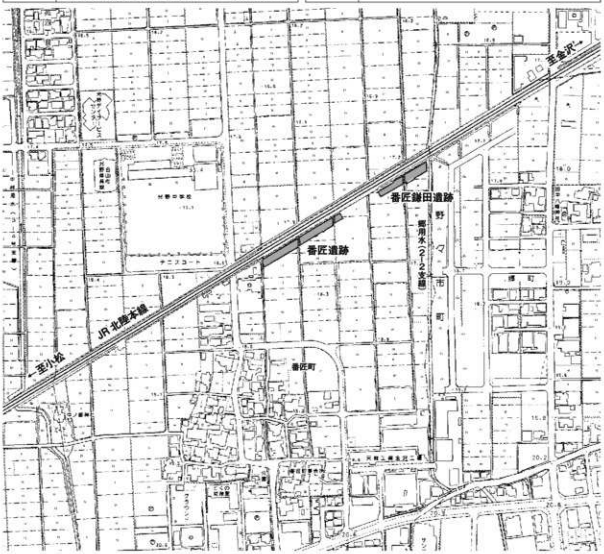
出土品整理、報告書作成・刊行は県教育委員会文化財課からの委託事業として、平成21・22年度に、財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施した。平成21年度は調査部国関係調査グループが担当し、出土品の記名・分類・接合、実測・トレース、遺構図トレースを行った。平成22年度は調査部特定事業調査グループが担当し、出土品の写真撮影、原稿執筆、図版作成を行い、報告書刊行に至る。

◎調査体制(平成20年度)

調査期間	平成20年4月28日～同年10月10日
調査主体	財石川県埋蔵文化財センター（理事長　中西吉明）
総　括	黒崎宰作(専務理事)
事　務	柴山正文(事務局長)
総　務	釜親利雄(総務グループリーダー)
経　理	谷内孝夫(総務グループ専門員)
調　査	湯尾修平(所長) 三浦純夫(調査部長) 伊藤雅文(県関係調査グループリーダー)
担　当	宮川勝次(県関係調査グループ主任主事) 森　由佳(県関係調査グループ嘱託調査員)
作　業	久保正直、藤島美知子、吉本功子、本田一三一、小倉待子、高野義一、上田静子、水井孝子、道下義賀、梅野米示、谷口武雄、梅田初枝、新坪春枝、鍛冶雄二、田井良美、柴田更時、北　武光、西田　巧、福田佳代

◎整理体制(平成21年度)

整理期間	平成21年12月8日～同年12月21日
整理主体	財石川県埋蔵文化財センター（理事長　中西吉明）
総　括	黒崎宰作(専務理事)
事　務	柴山正文(事務局長)
総　務	釜親利雄(総務グループリーダー)
経　理	谷内孝夫(総務グループ専門員)
調　査	湯尾修平(所長) 三浦純夫(調査部長) 藤田邦雄(国関係調査グループリーダー)
担　当	宮川勝次(企画・普及グループ主任主事)
作　業	河村裕子、松田智恵子、中尾望穂、小林多恵子、朝倉佳子、田中裕子、伊藤好美、北寿栄、小島紀子



第１図　調査区位置図(S＝1/5,000)

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

番匠遺跡・番匠鎌田遺跡は白山市番匠町地内に位置する。白山市は面積755.17㎢、西は日本海に臨み南東に白山を擁する県内最大の広さを誇る市である。

遺跡は、標高80mの鵜来付近を扇頂とする手取川扇状地の扇央部北部、標高17～18m地点に位置する。手取川は日本有数の急流であるため扇状地礫層が非常に厚く、一方でその上に堆積した沖積層が浅いため、扇央部から扇頂部にかけて保水性が弱く地下水位も低くなり、湧水は扇端部に限られる。現在の地形は縄文時代中期頃までにほぼ形成されたが、手取川はその後何度も流路を変えて新たな分流や扇状地を形成している。古来より扇央部では、その分流や旧流路を利用した用水路が引かれ稲作が行われた。「七ヶ用水」はその名残であり、富樫・郷・中村・山島・大慶寺用水は中世以前に、中島・新砂川用水は近世に引かれ、平野部には現在も豊富な水を生かした水田が広がっている。

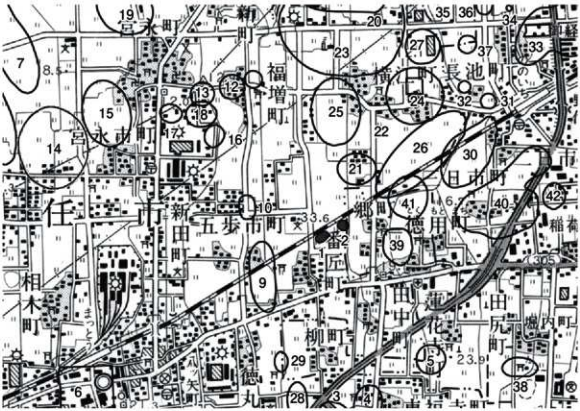
第２図　遺跡位置図

第２節　歴史的環境

本遺跡周辺では、郷用水中流域や御経塚遺跡以北の地下水が自噴する低湿地を中心に、乾遺跡(3)や御経塚遺跡(33)等の縄文時代後晩期から弥生時代前期の集落が確認されている。弥生時代後期になると遺跡数が急増し、海岸部や中村用水中流域の扇央部にも集落が築かれるようになる。横江古屋敷遺跡(27)・五歩市遺跡(9)・二日市イシバチ遺跡(30)・徳丸ジョウジャダ遺跡(29)・御経塚シンデン遺跡(35)等があるが、古墳時代前期まで継続する遺跡が多く、御経塚シンデン遺跡では、前期に前方後方墳3基を含む15基の御経塚シンデン古墳群(36)が築かれ、後期には再び集落に変質していく過程がみられる。

扇央部で本格的に開発が行われるのは古代からで、横江荘遺跡(20)からは、8世紀第3四半期～10世紀中頃の東大寺領であった時期の掘立柱建物や欄列など、管理施設と考えられる遺構を検出している。他にも10世紀代の集落遺跡で、瓦塔の出土から公的な施設の存在が指摘されている徳用クヤダ遺跡(39)や、古代北陸道と考えられる道路状遺構を検出した三日市A遺跡(40)・三日市ヒガシタンボ遺跡(42)がある。また、本遺跡は郷用水流域に位置するが、同じ流域の約3km上流には末松遺跡群が存在する。7世紀後半に創建された末松廃寺を中心とする遺跡群で、末松廃寺は北加賀の有力氏族・道氏の氏寺ともされ、8世紀第3四半期に一時廃絶するものの、9世紀第4四半期～11世紀まで存続している。その周辺では末松遺跡など、7世紀後半～10世紀の集落遺跡が確認されており、小ブロックに分かれた大きな居住域を形成していたと考えられている。『和名抄』によると、8～9世紀前半の石川郡には八郷が置かれている。本遺跡がどの郷に属するかは不明であるが、『日本惣国風土記』(14世紀)や、『正保郷帳』(1646年)をもとに郷庄域を比定した案(木田1999a)によると、本遺跡は手取川上流部から末松廃寺を含む近世中奥郷全域にあたる「味知郷」に属し、「中村郷」・「椋部郷」・「横江荘」と隣接する可能性がある。

中世の遺跡には、14～15世紀代の在地領主の居館と考えられる横江館跡(22)や、溝で屋敷地や墓地・耕作地を区画した長池キタノハシ遺跡(31)・徳用クヤダ遺跡(39)が確認されている。松任城跡(6)は平安時代末期に在地領主・松任氏の館として成立し、一向一揆の際に城郭化されている。



第３図　周辺の遺跡(S＝1/25,000)〔国土地理院1：50,000地形図　金沢（平成８年発行）を改変〕

No.	遺跡No.	名　称	時　代	種　別
1		番匠遺跡	古代・中世	集落跡
2		番匠鎌田遺跡	中世	集落跡
3	08045	乾遺跡	縄文～近世	墓地・散布地
4	08046	専福寺遺跡	中世	寺院跡
5	08048	田中ノ才遺跡	弥生・古墳	集落跡
6	08074	松任城跡	室町・安土桃山	城跡
7	08103	竹松遺跡	弥生・古墳	集落跡
8	08104	竹松C遺跡	弥生後期	集落跡
9	08111	五歩市遺跡	弥生・古墳・中世・近世	集落跡
10	08112	あさひ荘遺跡	奈良・平安	散布地
11	08113	福増遺跡	縄文・弥生	散布地
12	08114	寺上市左エ門館跡	室町	館跡
13	08115	福増東川遺跡	不詳	散布地
14	08116	宮水市遺跡	弥生・中世	集落跡
15	08117	塔の森遺跡	弥生・古墳・中世	集落跡・寺跡
16	08118	宮水市境田遺跡	奈良・平安	散布地
17	08119	宮水堰堀遺跡	縄文	散布地
18	08120	宮水ほ三川遺跡	鎌倉・室町	館跡・墓地
19	08122	宮水B遺跡	縄文・古墳・中世	散布地
20	08135	横江荘遺跡	奈良・平安	荘園
21	08136	横江ゴタラク寺遺跡	縄文・中世	散布地・寺跡
22	08137	横江館跡	中世	館跡
23	08138	横江A遺跡	縄文・弥生・古墳・平安	集落跡
24	08139	横江B遺跡	平安	集落跡
25	08140	横江C遺跡	古墳	散布地
26	08141	横江D遺跡	不詳	散布地
27	08142	横江古屋敷遺跡	弥生	集落跡
28		乾町三月田遺跡	中世	集落跡
29		徳丸ジョウジャダ遺跡	弥生・平安	集落跡
30	16024	二日市イシバチ遺跡	弥生末～古墳初・鎌倉・室町	集落跡
31	16025	長池キタノハシ遺跡	縄文後晩期・弥生・奈良・中世	集落跡
32	16026	長池ニシタンボ遺跡	縄文・弥生末～古墳初・室町	集落跡
33	16027	御経塚遺跡	縄文後晩期・弥生・奈良～中世	集落跡
34	16029	御経塚経塚	不詳	経塚
35	16030	御経塚シンデン遺跡	縄文後晩期・弥生・古墳・中世	集落跡
36	16031	御経塚シンデン古墳群	古墳	古墳
37	16032	御経塚オッツ遺跡	弥生	集落跡
38		堀内館跡	弥生・中世・近世	館跡
39		徳用クヤダ遺跡	古代・中世	集落跡
40		三日市A遺跡	弥生・古代・中世	集落跡
41		郷クボタ遺跡	古代・中世	集落跡
42		三日市ヒガシタンボ遺跡	弥生・奈良・平安・中世	集落跡

第１表　周辺の遺跡一覧表

第3章　番　匠　遺　跡

第1節　概　　要

調査区はJR北陸本線に並走し、延長約120m、面積1,300㎡を対象とする。

区割りは、同年度に調査を実施した番匠鎌田遺跡と同一に実施し、調査区の主軸方向を基準に、中央ラインに10mグリッドを設定した。そのラインから90°ふる南北両側についても調査区幅に合わせて任意に行った。なお、主軸方向は座標北から東に約60°振る。グリッド番号は、北東(番匠鎌田遺跡)から南西(番匠遺跡)方向に数字1～25、中央ラインを基準に北・南側を、それぞれアルファベットN・Sと表記した。番匠遺跡は13～25区が対象となる。

基本層序は、①耕土(20～60㎝)、②遺物包含層(20～60㎝)、③地山となる。地表の標高は、17.6～18.0mを測り、西方に向かうにつれ高くなる。地山の標高は、13～16区が16.6m、17～20区(掘立柱建物、小穴群、井戸等の遺構集中区)が16.7～17.5mを測り、他の地区に比べてやや高く、21～25区は17.3mを測り、西方に向かって低くなる様相がみうけられる。ただし、部分的に遺物包含層とした黒色系及び黒褐色系、地山層とした黄褐色系(褐色系)及び暗灰色系の類似層が錯綜しており、平面的に捉えにくく、断面観察と検出面の標高値には多少の誤差が生じている。また、遺構の大半は、遺物包含層から切り込んでいたことも明記しておく。地山は、総体的に褐色系(13・14区)、黄褐色系(15～20区)、暗灰黄色系(21・22区)、褐色系(23～25区)を基本とし、埋土は、概ね古代が黒褐色系、中世が(灰)褐色系になると考えられる。

縄文時代から近世にかけての遺構・遺物を確認できたが、主体となるのは古代・中世である。遺構は掘立柱建物3棟、井戸1基、土坑12基、小穴多数、溝13条を確認し、17～20区に集中する。13～16・21～25区は溝を主体に土坑や小穴が散見される。遺物は古代の須恵器・土師器、中世の珠洲焼、土師器皿、白磁、青磁、近世の陶磁器の他、打製石斧や砥石等が出土している。

第2節　遺　　構

1. 掘立柱建物

SB1(第6図)

16・17区に位置する。桁行4間(11m)×梁行2間(6.2m)以上の側柱建物(東西棟)を復元した。主軸方位は西に約2°振る。P1～7で構成し、柱穴規模は長軸126～134㎝、短軸98～124㎝を測り、平面形は隅丸方形である。深さは38～54㎝(断面からP1・7は70～80㎝)を測り、桁行中央(P6)が他に比べて浅い。柱間距離は、梁行300～316㎝、桁行のP2～5間が280～290㎝であるが、P1・2間が240㎝と短い。柱根は認められないが、平面プラン及び断面から柱痕が明瞭に分かり、P2以外は掘り方のほぼ中央部に位置する。また、P3・4は、断面から柱抜取り痕が確認でき、南側方向の抜取りがみられる。掘り方埋土は、黄褐色系の地山ブロックが全体的に多量に混じる。遺物は、P3～5・7から須恵器(V期)や内黒土師器が出土している。

SB2(第7図)

17・18区に位置する。桁行3間(9.4m)×梁行2間(6.8m)の側柱建物(東西棟)を復元した。主軸方位

は西に約2°振る。P8～14で構成し、柱穴規模は長軸92～132㎝、短軸74～112㎝、深さ26～74㎝を測り、SB1と同様に桁行中央(P10)は他に比べて浅い。SB1と比べて柱穴規模は縮小し、平面形も統一的な形ではなく、歪んだものがみられる。柱間距離は、桁行310～328㎝、梁行340㎝を測る。柱根は認められないが、平面プラン及び断面から柱痕等が明瞭に分かり、SB1に比べて、柱痕位置が不規則である。また、掘り方埋土は、SB1と同様に地山ブックが多量に混じるが、部分集中的な堆積を示す。遺物は、P8・11・14から須恵器(Ⅴ期)・土師器が出土しており、P11の須恵器坏(第9図5)は柱穴底部に位置したものである。

SB3(第5図)

19区に位置する。1間(約5m)×2間(約4.20m)の建物を復元した。P20・21・23～26で構成し、規模はSB1・2に比べて小さい。主軸方位は西に約8°振る。長軸中央部は、柱穴が浅かったと思われ、確認できておらず、側柱のみの検出である。柱根は認められない。遺物はP26から須恵器盤(Ⅴ期)が出土している。

2. 井　　戸

SK1(第8図)

18区に位置する。長軸420㎝、短軸244㎝、深さ200㎝を測る。北部は調査区外に延びるため、全形はつかめていない。埋土は19層に分けられ、上・中層は褐灰色・黒褐色粘質土を主体とし、安定した地質をもつが、下層は黒色粘質土に腐植物が多少に混じり、粘性が強い。西側下層に堆積する灰オリーブシルト(第8図24～26層土)が、地山質であることから、裏込め土として使用されたものであり、調査範囲は側材の南縁部に位置する可能性がある。側材は北部に遺存しているものと考えられる。遺物は、珠洲焼(Ⅰ期)が24層土下部から出土している他は、土師器皿(12世紀後半～13世紀前半)、白磁、青磁等が出土している。

3. 土　　坑

SK3(第8図)

21区に位置する。東西90㎝、南北84㎝以上、深さ18㎝を測る。南側はSD13に切られる。遺物は、土師器片が出土している。時期は、出土遺物から特定できないが、SD13との前後関係や埋土から古代の可能性がある。

SK5(第8図)

21区に位置する。長軸98㎝、短軸78㎝、深さ22㎝を測り、平面形は楕円形である。埋土は黒褐色シルトの単層であり、炭粒が少量混じる。遺物は土師器片が出土している。時期は出土遺物から特定できないが、埋土から中世の可能性がある。

SK7～11(第8図)

21区に位置する。土坑規模・形状・長軸方位が類似した遺構群であり、SK7～9が140～160㎝間隔、SK10と南部に位置するSK11が、100㎝間隔でそれぞれ並列する。SK7～9は、長軸168～194㎝、短軸76～86㎝、深さ18～28㎝を測り、SK10・11は、一回り小さく長軸140㎝、短軸42㎝を測るが、深さは40㎝と深くなる。平面形はすべて隅丸長方形である。土坑内部に長軸に沿って横木を置き、その上部に立柱を伴う施設が推定でき、2基1対もしくは4基1対を基本としたものと考えられる。遺物はSK8・9から土師器皿(12世紀後半～13世紀前半)が出土している。

4. 溝

SD6～8(第4図)

15区に位置する。深さ20㎝を測り、東西方向に走る溝群である。前後関係はSD6・8・7の順で古くなる。遺物はSD6から白磁・土師器皿(12世紀後半)が出土しており、SD7・8からも中世に属すると考えられる土師器片が認められる。3.7m北方に位置するSD10は、出土遺物から特定はできないが、軸方向が同じであることや埋土(灰黄褐色)から、同時期の可能性がある。

SD13(第4図)

20・21区に位置する。幅50㎝、深さ14㎝を測る。東西方向に走り、途中で北方に緩やかにクランクする。溝の西側は不明瞭となり、SD14付近で浅い土坑状として終着する。SD14に切られる。遺物は土師器片が出土している。SD6～8・10と軸方位が同じであることから、中世の可能性がある。

SD14(第4図)

21区に位置する。幅64～92㎝、深さ12～24㎝を測り、北西－南東方向にSD15と並走する。遺物は土師器片が少量出土している。時期を特定できないが、SD15と同時期と考えられる。

SD15(第4図)

20区に位置する。幅70～110㎝、深さ64～70㎝を測り、北西－南東方向に走る。遺物は土師器片が少量出土している。SD14とは軸方位が同じであることから、同時期の可能性がある。また、両溝は南北や東西に走る基幹的な溝に対し、支線的なものとして古代もしくは中世に機能していたと考えられる。

SD17(第4図)

20区に位置する。調査区端部に位置し、東西両肩一部の検出のため、全形はつかめていないが、北北西－南南西に走ると推定でき、遺物は、土師器片が出土しているが、時期は不明である。

SD19・20・22(第4図)

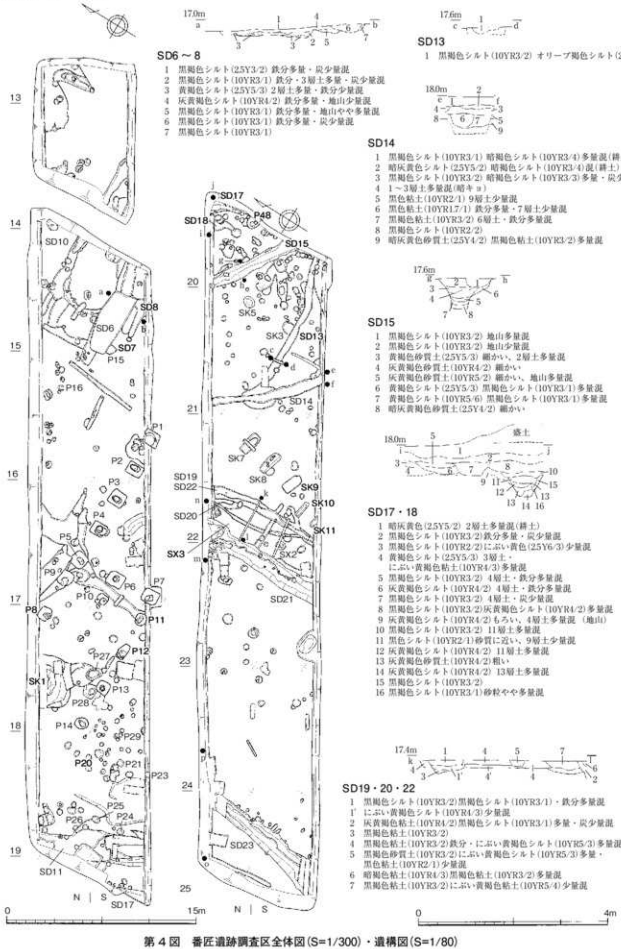
22区に位置する。SD19は、幅66～106㎝、深さ13～18㎝を測り、南北に走る。その下層をSD22と別遺構として位置付けているが、出土遺物や形状からSD19の埋土の一部として捉えられる可能性がある。SD20は、SD19の西部に位置する弧状の溝であり、SD19・22に切られる。幅16～32㎝、深さ15～23㎝を測る。遺物は、SD19から須恵器・土師器鍋(Ⅴ期)等が出土している。その他に、SD19・22と近接するSX2・3から打製石斧が集中して出土している。出土遺物や遺構の前後関係から、SD20は古代より古い可能性がある。

SD21(第4・5図)

22・23区に位置する。幅200㎝、深さ50㎝を測り、南北方向に走る。埋土は11層(第5図6・9～18層土)に分けられ、①にぶい黄褐色(9～11・14層土)、②暗褐色(12・13・15～17層土)、③黒褐色(6・9・18層土)に大別でき、③層埋没後に、再掘削(①・②層に該当)されたものと推定でき、古代を初現とするが、中世前半期にも断続的に機能していたと考えられる。遺物は溝底部付近で須恵器・土師器(Ⅴ期)が良好な状態で定量出土している。

SD23(第4・5図)

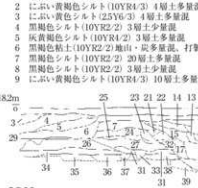
25区に位置する。幅126～190㎝、深さ68～73㎝を測り、南北方向に走る。SD21と同様に、埋土及びその堆積の様相から、古代以降も断続的に機能していたと考えられる溝である。遺物は須恵器(Ⅴ期)が出土している。



第４図　番匠遺跡調査区全体図(S=1/300)・遺構図(S=1/80)

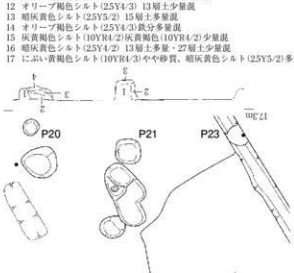
SD21

1　暗灰黄色(2.5Y5/2) 2層土多量混(耕土)
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3) 4層土多量混(耕土)
3　にぶい黄色シルト(2.5Y6/3) 4層土多量混
4　黒褐色シルト(10YR2/2) 3層土少量混
5　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 3層土多量混
6　黒褐色粘土(10YR2/2)地山・炭多量混、打製石斧出土
7　黒褐色シルト(10YR2/2) 20層土多量混
8　黒褐色シルト(10YR2/2) 3層土少量混
9　にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 10層土多量混
10　褐色シルト(10YR4/4) 11層土多量混
11　にぶい黄褐色シルト(2.5Y5/3) 10・14層土多量混
12　黒褐色シルト(10YR3/2)
13　暗褐色シルト(10YR3/3)褐色粘土(10YR4/4)少量混
14　にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 11層土多量混 細かい砂質に近い
15　暗褐色シルト(10YR3/3)鉄分多量混
16　14・17層土の互層　黒色粘土(10YR2/1)少量混
17　灰黄褐色粘土(10YR4/2)鉄分多量混・地山少量混
18　暗褐色粘土(10YR3/3)褐色粘土(10YR4/4)多量混
19　黒褐色粘土(10YR3/2)地山・鉄分多量混
20　暗褐色シルト(10YR3/3) 25層土多量混
21　黒色粘土(10YR2/1) 20層土多量混
22　暗褐色シルト(10YR3/3) 23層土多量混
24　暗褐色粘土(10YR3/2)炭やや多量混
25　黒褐色シルト(10YR2/2) 26層土多量混
26　暗褐色シルト(10YR3/3)にぶい黄褐色(10YR4/3)・25層土多量混
27　黒褐色シルト(10YR3/2)にぶい黄褐色粘砂(10YR4/3)多量混
28　黒褐色粘土(10YR3/2)黒褐色シルト(10YR3/1)・
鉄分多量、褐色粘土(10YR4/4)少量混
29　黒色粘土(10YR2/1) 28層土・褐色粘土(10YR4/4)少量混



SD23

1　褐灰色シルト(10YR4/1)（耕土）
2　褐色粘土(10YR4/4)（耕土）
3　黄褐色シルト(2.5Y4/1)もろい
4　暗灰黄色シルト(2.5Y4/2)もろい
5　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 5cm程の礫少量混、もろい
6　灰黄褐色シルト(10YR4/2)鉄分多量混
7　黄褐色シルト(2.5Y5/3)
8　にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 10cm程の礫混
9　にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)
10　灰黄褐色シルト(10YR4/2)
11　にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) 13・27層土少量混
12　オリーブ褐色シルト(2.5Y4/3) 13層土少量混
13　暗灰黄色シルト(2.5Y5/2) 15層土多量混
14　オリーブ褐色シルト(2.5Y4/3)鉄分多量混
15　灰黄褐色シルト(10YR4/2)灰黄褐色(10YR4/2)少量混
16　暗灰黄色シルト(2.5Y4/2) 13層土多量・27層土少量混
17　にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)やや砂質、暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)多量混
18　暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)鉄分・にぶい黄色(2.5Y6/3)多量混
19　褐灰色シルト(10YR4/1) 16層土少量混
20　にぶい黄褐色粘土(10YR5/3) 40層土少量混
21　オリーブ褐色シルト(2.5Y4/3) 22層土多量混
22　暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2)やや軟い
23　暗灰黄色シルト(2.5Y4/2) 22層土多量混
24　黒褐色粘土(10YR3/3)
25　黒褐色シルト(10YR3/2)灰黄褐色(10YR4/2)多量・炭少量混
26　黒色粘土(N1.5)0鉄分多量混
27　黒褐色シルト(10YR3/1) 25層土多量混
28　25・27層土多量混
29　黒褐色シルト(10YR3/2)鉄分多量混
30　黒色粘土(10YR2/1)
31　黒褐色粘土(10YR2/2) 24層土多量混
32　にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 27層土・鉄分少量混
33　黒褐色粘土(10YR3/2) 38層土多量混
34　黒褐色粘土(2.5Y3/1)にぶい黄色粘土(2.5Y6/3)・鉄分多量混
35　黄褐色砂質土(2.5Y5/3)やや軟・鉄分多量混
36　暗灰黄色シルト(2.5Y5/2) 34層土少量混
37　黄灰色粘土(2.5YX5/1) 36層土多量混
38　灰黄褐色粘土(10YR5/2)
39　黒色粘土(10YR2/1) 38層土極少量混
40　黒色粘土(10YR2/1) 20層土・褐色土(10YR4/4)少量・鉄分多量混



P20

1　黒色シルト(10YR2/1)黄褐色シルト(10YR5/6)少量混
2　黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黄褐色シルト(10YR5/6)少量混
3　黒褐色シルト(10YR2/2)地山極少量・黄褐色シルト(10YR5/6)少量混
4　黒褐色シルト(10YR2/2) 3層土・黄褐色シルト(10YR5/6)多量・
灰オリーブシルト(5Y5/2)少量混

P21

1　黒色シルト(10YR2/1)黄褐色シルト(10YR5/6)極少量・土器片混
2　黒色シルト(10YR2/1)黄褐色シルト(10YR5/6)・
黒褐色シルト(10YR3/1)多量混
3　黒色シルト(2.5Y2/1)砂粒多量混

P24

1　黒褐色粘質土(2.5Y3/1)鉄分多量混
2　黒褐色シルト(10YR3/2)黄褐色シルト(10YR5/6)多量混
3　黒褐色シルト(10YR3/2)黄褐色シルト(10YR5/6)極少量混
4　灰黄褐色シルト(10YR4/2)黄褐色シルト(10YR5/6)多量混

P25

1　黒褐色シルト(10YR2/2)鉄分多量混
2　黒褐色シルト(10YR2/2)砂粒多量・黄褐色シルト(10YR5/6)極少量混
3　黒色シルト(10YR2/1)
4　黒褐色シルト(10YR2/2)黄褐色シルト(10YR5/6)極少量混
5　灰黄褐色粘土(10YR4/2)炭少量混

P26

1　黒褐色シルト(10YR3/2)
2　黒褐色シルト(10YR3/2)　炭混
3　黒褐色シルト(10YR2/2)
4　黒褐色シルト(10YR2/2)炭多量混
5　黒褐色シルト(10YR2/2)
6　黒褐色シルト(10YR2/2)
7　黒色シルト(10YR2/1)
8　黒褐色シルト(10YR3/2)灰黄褐色砂(10YR5/2)混
9　黒褐色シルト(10YR3/2)灰黄褐色砂(10YR5/2)混

第５図　遺構図１(S=1/80)

第2節　遺　構

P1

1 黄灰色シルト(2.5Y4/1)（耕土）
2 暗灰黄色シルト(2.5Y4/2)
　オリーブ褐色シルト(2.5Y4/3)多量混(耕土)
3 黒色シルト(10YR2/1)黒色シルト(10YR3/2)多量混
4 黒色シルト(10YR2/1)地山微少量混
5 黒色シルト(10YR2/1)地山・20層土多量混
6 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・20層土極少量混
7 黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量混
8 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・20層土・鉄分多量混
9 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・20層土多量混
10 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・20層土多量混
11 褐灰色シルト(10YR4/1)地山・20層土多量混
12 黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量混
13 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・20層土多量混
14 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・20層土多量混
15 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・20層土多量混
16 地山　15・20層土多量混
17 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・20層土多量混
18 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量混
19 黒色シルト(10YR2/1)地山多量混
20 黒色シルト(10YR1.7/1)
　にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)少量・鉄分多量混
21 黒色シルト(10YR1.7/1)
　黒褐色シルト(10YR3/2)少量・鉄分多量混
22 黄褐色シルト(2.5Y5/3)鉄分多量混

柱穴埋土

P2

1 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量混、2層との境に鉄分の層
2 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・12層土少量混
3 黒褐色シルト(10YR3/2)地山やや多量・12層土少量・褐灰色粘土(10YR4/1)多量混
4 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・12層土・褐灰色粘土(10YR4/1)少量混
5 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・12層土多量混
6 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・褐灰色粘土(10YR4/1)少量混
7 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・12層土少量混
8 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・12層土少量混
9 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)地山多量・12層土・8層土少量混
10 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・12層土少量混
11 地山　9層土多量・黒色シルト(10YR2/1)少量混
12 黒色シルト(10YR2/1)地山極少量・10層土少量混
13 地山
14 地山・9層土少量混

P3

1 黒褐色シルト(10YR2/2)地山少量・黒色シルト(10YR1.7/1)板少量混
2 黒褐色シルト(10YR3/2)地山少量・黒色シルト(10YR1.7/1)板少量混
3 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
4 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
5 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
6 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・炭少量混
7 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
8 黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)やや多量混
9 黒褐色シルト(10YR3/2)地山少量混
10 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混(地山との互層状)
11 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)10層土・黒色シルト(10YR1.7/1)やや多量混
12 黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
13 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
14 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
15 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)
　多量混、土器片含む

P4

1 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
2 黒褐色シルト(10YR3/2)地山少量・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
3 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
4 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
5 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・6層土多量混
6 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
7 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
8 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
9 地山　黒褐色粘土(10YR3/2)多量混
10 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
11 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
12 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
13 地山　12層土やや多量混
14 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
15 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
16 地山　黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
17 黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
18 地山　黒色シルト(10YR1.7/1)少量・19層土多量混
19 黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量混

P5

1 黒褐色シルト(10YR3/1)地山・鉄分やや多量・炭少量混
2 黒褐色シルト(10YR3/1)地山・鉄分やや少量混
3 黒褐色シルト(10YR3/1)地山・鉄分やや多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
4 黒褐色シルト(10YR3/1)地山・鉄分多量混
5 黒褐色シルト(10YR2/1)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
6 地山　6層土・黒色シルト(10YR1.7/1)多量・鉄分少量混
7 黒褐色シルト(10YR3/1)地山・鉄分多量混
8 黒褐色シルト(10YR3/1)地山多量・鉄分少量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
9 地山　黒褐色シルト・黒色シルト(10YR1.7/1)・鉄分多量混
10 黒褐色シルト(10YR3/1)地山やや多量混・鉄分少量
11 黒褐色シルト(10YR3/1)地山やや多量混・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
12 地山　11層土・鉄分多量混
13 **黒褐色シルト**(10YR3/1)地山やや多量・鉄分多量・黒色シルト(10YR1.7/1)板少量混

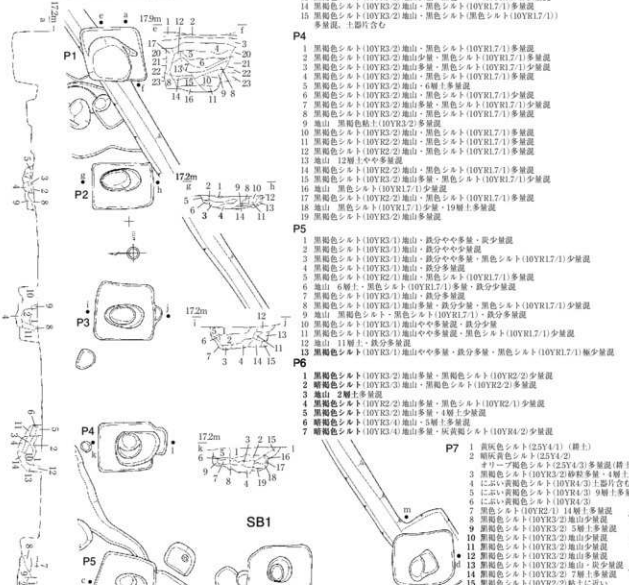
P6

1 **黒褐色シルト**(10YR3/2)地山多量・黒褐色シルト(10YR2/2)少量混
2 **暗褐色シルト**(10YR3/3)地山・黒褐色シルト(10YR2/2)多量混
3 **地山　2層土**多量混
4 **黒褐色シルト**(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR2/1)少量混
5 **黒褐色シルト**(10YR3/2)地山多量・4層土少量混
6 **暗褐色シルト**(10YR3/4)地山・5層土多量混
7 **暗褐色シルト**(10YR3/4)地山多量・灰黄褐シルト(10YR4/2)少量混

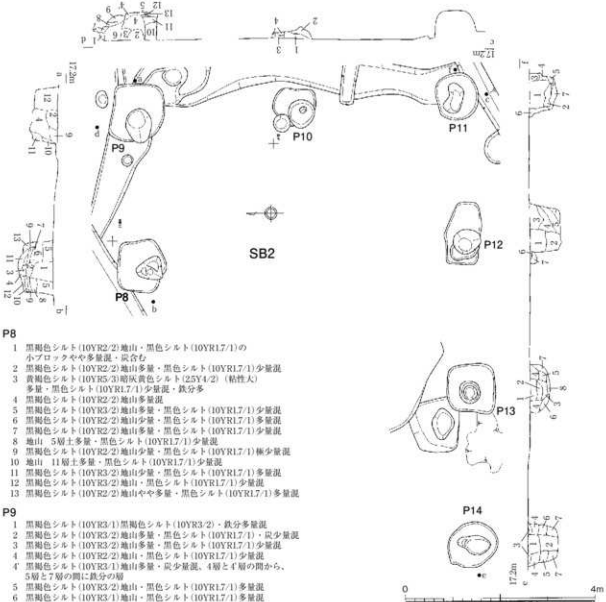
P7

1 黄灰色シルト(2.5Y4/1)（耕土）
2 暗灰黄色シルト(2.5Y4/2)
　オリーブ褐色シルト(2.5Y4/3)多量混(耕土)
3 黒褐色シルト(10YR3/2)砂粒多量・4層土・灰少量混
4 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)土器片含む
5 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)9層土多量混
6 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)
7 黒色シルト(10YR2/1)14層土多量混
8 黒褐色シルト(10YR3/2)地山少量混
9 **黒褐色シルト**(10YR3/2)5層土多量混
10 黒褐色シルト(10YR3/2)地山少量混
11 黒褐色シルト(10YR3/2)地山少量混
12 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・炭少量混
13 黒褐色シルト(10YR3/2)地山・炭少量混
14 黒褐色シルト(10YR3/2)7層土多量混
15 黒褐色シルト(10YR2/2)粘土に近い

柱穴埋土



第6図　遺構図2(S＝1/80)



P8

1　黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)の
　小ブロックやや多量混・炭含む
2　黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
3　黄褐色シルト(10YR5/3)明灰黄色シルト(2.5Y4/2)（粘性大）
　多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混・鉄分多
4　黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量混
5　黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
6　黒褐色シルト(10YR2/2)地山少量・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
7　黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
8　地山　5層土多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
9　黒褐色シルト(10YR2/2)地山少量・黒色シルト(10YR1.7/1)極少量混
10　地山　11層土多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
11　黒褐色シルト(10YR3/2)地山少量・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
12　黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
13　黒褐色シルト(10YR2/2)地山やや多量・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混

P9

1　黒褐色シルト(10YR3/1)黒褐色シルト(10YR3/2)・鉄分多量混
2　黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)・炭少量混
3　黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
4　黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
4'　黒褐色シルト(10YR3/1)地山多量・炭少量混、4層と4'層の間から、
　5層と7層の間に鉄分の層
5　黒褐色シルト(10YR3/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
6　黒褐色シルト(10YR3/1)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
7　地山　5層土・鉄分多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
8　地山　4'層土多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
9　黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
10　黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
11　地山　10層土多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
12　黒色シルト(10YR2/1)地山・鉄分・4'層土多量混
13　黒褐色シルト(10YR2/2)地山・鉄分・4'層土・砂粒少量混
　(13・14層と4'層の境に鉄分の層)
14　地山　13層土少量混　(13・14層と4'層の境に鉄分の層)
15　黒褐色粘土(10YR3/1)地山多量混

P10

1　黒褐色シルト(10YR2/2)地山少量・
　黒色シルト(10YR1.7/1)極少量混
2　黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量混
3　黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量混
4　灰黄褐色シルト(10YR4/2)地山・3層土少量混

P11

1　黒色シルト(10YR2/1)砂粒・鉄分多量、地山少量混
2　黒褐色シルト(10YR3/1)4層土少量混
3　黒褐色シルト(10YR3/1)地山・鉄分多量混
4　黒色シルト(10YR1.7/1)地山・鉄分少量混
5　黒色シルト(10YR2/1)礫多量混、須恵器出土
6　黒色シルト(10YR2/1)地山多量・炭少量混
7　黒褐色シルト(10YR3/1)地山多量混

P12

1　黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混・炭含む
2　黒褐色シルト(10YR2/2)地山・黒色シルト(10YR1.7/1)少量混
3　黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量混
4　黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量混
5　黒褐色シルト(10YR2/2)地山多量・黒色シルト(10YR1.7/1)・6層土少量混
6　黒褐色シルト(10YR2/1)地山少量・黒色シルト(10YR1.7/1)多量混
7　地山　黒色シルト(10YR1.7/1)少量混

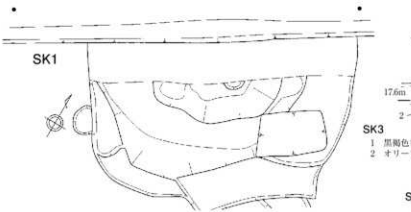
P13

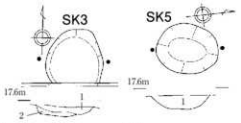
1　黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量・黒色シルト(10YR2/1)・鉄分少量混
2　黒褐色シルト(10YR3/1)地山やや多量・鉄分少量混
3　黒褐色シルト(10YR3/1)地山極少量混
4　黒褐色シルト(10YR3/1)地山多量・黒色シルト(10YR2/1)・鉄分少量混
5　黒褐色シルト(10YR2/2)地山極少量・7層土少量混
6　黒褐色シルト(10YR2/2)地山少量・黒色シルト(10YR2/1)多量混
7　黒褐色シルト(10YR2/2)地山少量・黒色シルト(10YR2/1)多量混
8　灰黄褐色シルト(10YR4/2)地山・鉄分多量混

P14

1　黒褐色シルト(10YR3/2)地山少量混
2　黒褐色シルト(10YR3/1)地山極少量混・やや砂質っぽい
3　黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量混
4　黒褐色シルト(10YR2/1)地山多量混
5　黒褐色シルト(10YR2/1)地山・鉄分少量混
6　黒褐色シルト(10YR3/1)地山多量混、やや砂質っぽい
7　黒褐色シルト(10YR3/1)地山多量混

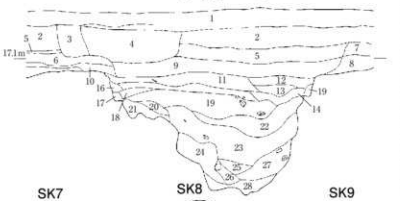
第７図　遺構図３(S＝1/80)



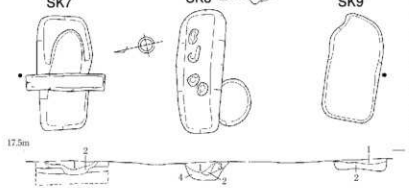


SK3
1　黒褐色粘(2.5Y3/2)
2　オリーブ褐色粘(2.5Y4/3)

SK5
1　黒褐色シルト(2.5Y3/2)炭少量混



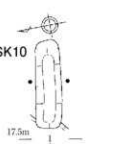
SK1
1　耕土
2　客土
3　攪乱
4　攪乱
5　灰黄褐色シルト(10YR4/2)
6　黒褐色シルト(10YR2/1)
7　黒褐色粘質土(10YR2/2)
8　黒褐色粘質土(10YR2/1)
9　黒褐色粘質土(10YR3/2)
10　黒褐色粘質土(10YR3/1)
11　黒褐色シルト(10YR2/1)
12　褐灰色粘質土(10YR4/1)鉄分・地山ブロック少量混
13　褐灰色粘質土(10YR4/1)鉄分・地山ブロック少量混
14　褐灰色粘質土(10YR4/1)鉄分混
15　褐灰色粘質土(10YR4/1)
16　黒褐色粘質土(10YR2/2)地山少量混
17　黒褐色粘質土(10YR3/2)地山少量混
18　黒褐色粘質土(10YR3/2)
19　黒褐色粘質土(10YR3/1)
灰黄褐色粘質土(10YR4/2)・腐植物少量混
20　灰オリーブシルト(7.5Y 5/2)
黒色粘質土(10YR1/2)多量混
21　黒色粘質土(10YR2/1)
灰オリーブシルト(7.5Y5/2)ブロック少量混
22　黒色粘質土(10YR2/1)腐植物少量混、拳大の礫少量入る
23　黒色粘質土(10YR2/1)腐植物多量混、
灰黄褐色粘質土(10YR4/2)帯状に少量混
24　黒色粘質土(10YR2/1)
灰オリーブ粘質土(7.5Y5/2)ブロック多量混
25　灰オリーブシルト(7.5Y5/2)黒色粘質土(10YR2/1)少量混
26　灰オリーブシルト(7.5Y5/2)
27　黒色粘質土(10YR2/1)腐植物少量混
28　黒色粘質土(10YR2/1)灰オリーブシルト(7.5Y5/2)
マーブル状に多量混

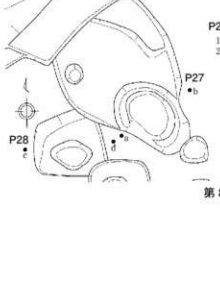


SK7
1　黒褐色シルト(10YR3/2)地山・2層土多量混
2　黒色シルト(10YR2/1)地山多量混

SK9
1　灰黄褐色粘土(10YR4/2)地山少量混
2　黒褐色粘土(10YR3/1)地山多量混

SK8
1　灰黄褐色粘土(10YR4/2)地山多量混
2　黒褐色粘土(10YR3/1)地山少量混
3　灰黄褐色粘土(10YR4/2)地山少量混
4　灰黄褐色粘土(10YR4/2)地山少量混





P27
1　黒褐色シルト(2.5Y3/2)鉄分多量・炭少量混
2　灰黄褐色粘土(10YR4/2)1層土・炭少量・鉄分多量混

P28
1　黒褐色シルト(10YR3/2)2層土少量混
2　灰黄褐色シルト(10YR4/2)1層土多量混
3　灰黄褐色シルト(10YR4/2)1層土・地山少量混

SK10
1　灰黄褐色粘土(10YR4/2)
2　灰黄褐色粘土(10YR4/2)4層土多量混
3　灰黄褐色粘土(10YR4/2)4層土多量混
4　黒褐色シルト(10YR3/2)地山多量混

0　3m

第８図　遺構図４(S＝1/60)

第3節　遺　　物

1. 土　　器(第9図)

須恵器、土師器、珠洲焼、白磁が出土した。遺構出土土器の多くは須恵器、土師器で、特にSD19・21から多く出土した。SK1、SD5・6・23からは、珠洲焼甕、土師器皿、白磁の椀・皿が出土した。他にも弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器が数点みられ、SK13や表土中から18世紀後半～19世紀前半の陶磁器が少量出土している。

須恵器

無台坏が主体で、有台坏・盤・蓋・甕・壺が若干みられる。無台坏は、口径12㎝前後で底径7.2～9.2㎝のものと、口径13㎝台で底径8.4～10.2㎝のものがみられる。器高は共に3.2～3.6㎝である。21・22・31は判読不能であるが底部外面に墨書がみられる。28にも底部内面に墨痕と考えられる痕がみられる。また、2・5は底部内面の端にヘラ記号「一」または「｜」が施されている。有台坏は口径14㎝前後で、深身のもの(32)と浅身のもの(41)がみられる。台部は35がやや外傾し、41は内屈気味である。盤は口径15.9～17.3㎝、底径12.5～13.1㎝、器高2.8㎝を測る。蓋(36・37)は天井部に平坦面をもち、口径15.8㎝で口縁基部に平坦面をもつ36と、口径14.0㎝とやや小型で平坦面をもたない37がみられる。鈕の形態は不明であるが、扁平なボタン状の鈕が包含層から出土していることから、同様のものが付くと考えられる。36は内面に墨痕がみられ、転用硯として使用されたと考えられる。ほかに短頸壺の口縁部(27)や、甕の胴部が出土している。時期はⅤ期(9世紀代)に属し、2・5などⅤ2期のものや、1・22・41などやや古いⅤ1期のものがみられる。

土師器

出土量は須恵器に比べて少なく、椀・甕が出土している。甕(3)は口縁部が外傾して開き、端部を上方へ挽き出してやや外側に折る。器壁が非常に薄く丁寧な造りをしている。椀(38～40)のうち、38・40は内黒処理され、内面にミガキが施される。須恵器と同時期と考えられる。

珠洲焼

甕のみ出土している。11・12は頸部が長く外反して開き、口縁端部を外屈し垂下させ、「コ」の字状を呈する。吉岡編年でⅠ期(12世紀後半)と考えられる。

白磁

皿と椀が出土している。皿(14)は高台付きの端反りの皿で、見込みに欠き取りがみられる。椀(15・18)は内面に横方向の沈線がめぐる。白磁は全て中国産で、12世紀後半に属すると考えられる。

土師器皿

大・小2法量みられ、大型のもの(19)は口径13.6㎝、小型のもの(13・17)は口径6.6～7.6㎝を測る。全て口縁部に1段のヨコナデを施す。やや器形にばらつきがみられるが、珠洲焼や白磁と同時期と考えられる。

2. 石　　製　　品(第10図)

打製石斧

22区を中心に10点出土し、9点(石1～9)を図化した。全長20㎝を超える大型のものを主体として、中型(石6)・小型(石8・9)のものが若干含まれる。長軸の中ほどに括れをもつタイプに占められ、石3のみ括れをもたず基部から刃部に向ってやや広がるタイプである。基部形態は石2のみ直基で、そ

の他は円基にほぼ統一されるが、刃部形態は石1が円刃、石2・3が外湾刃、石5・6・8が凸刃と様々である。石1・2は両側縁を敲打し、石1の刃部全体に磨耗がみられる。石3は扁平な円礫の両側縁を一部敲打し、それほど手を加えず使用している。刃部が大きく剥離しており、使用による破損の可能性が考えられる。石4は基部・刃部ともに正面より破損している。石5は刃部に弱い磨耗がみられ、基部は裏面より破損している。石6は左側縁の一部に敲打、刃部右側縁の一部に磨耗がみられる。刃部左側縁を再生している可能性がある。石7は基部に磨耗がみられ、基部は正面より破損している。石8は両側縁の一部に敲打、基部の一部に磨耗がみられる。刃部は使用によるためか正面より破損している。石9の刃部側は、正面より破損している。弥生時代に属すると考えられる。

砥石

鳴滝産の仕上げ砥石（石10）で、幅1寸2分を測る。三側面に切断痕がみられ、裏面は剥離している。表面で平刃物を研ぎ、側面で刃先を調整している。14～15世紀と考えられる。

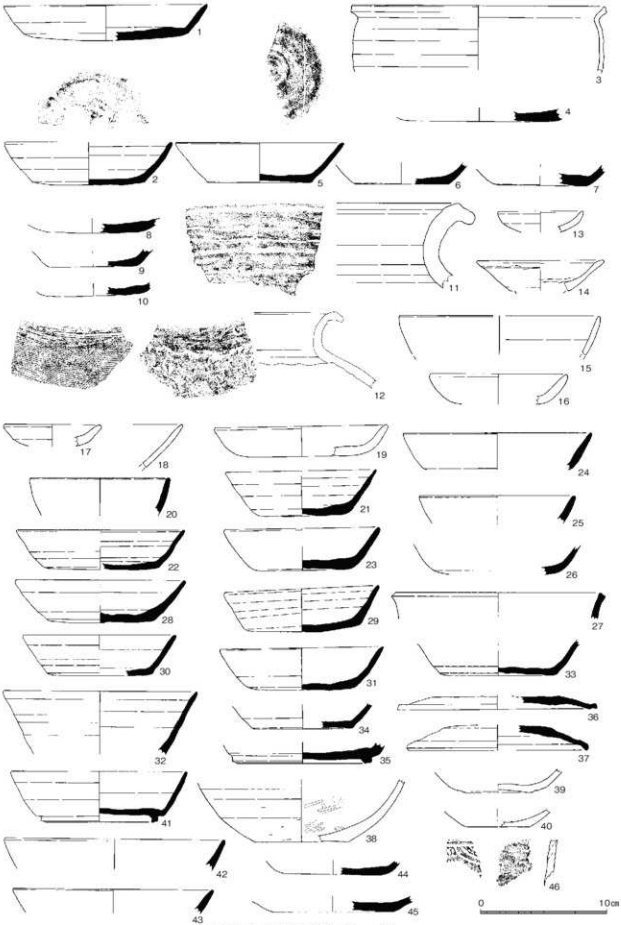
3. その他

P2（SB1）、P45、P46、P50からそれぞれ鉄滓が1点ずつ出土した。全て鍛冶滓で、総重量230.4gを測る。P2（SB1）から出土した鉄滓が最も大きく、約半量の109.8gを占めている。

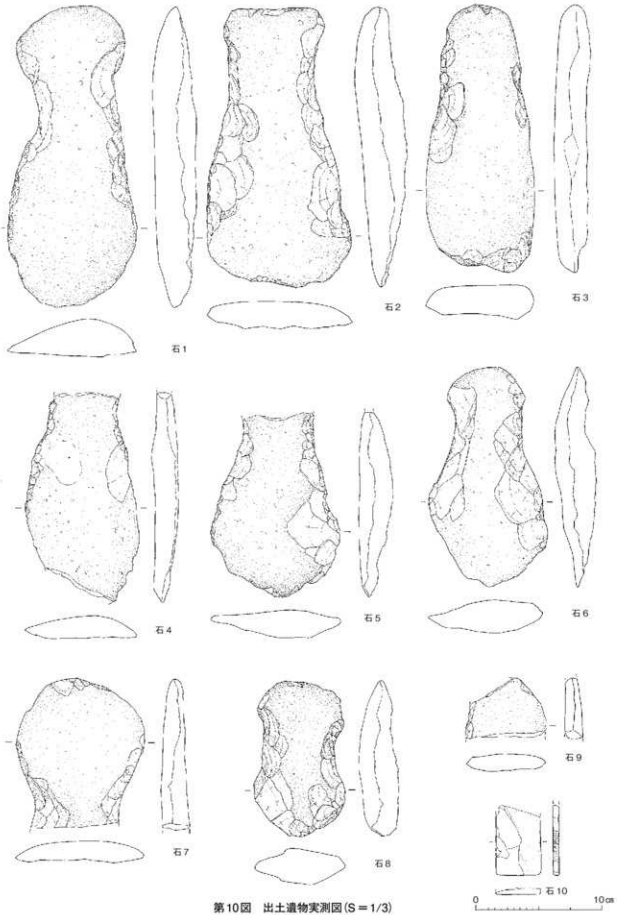
また、刀子が1点出土している。幅1.8㎝、厚さ8㎜を測る。刃先から4.4㎝のみ残存していた。排土中に発見したものであり、時期等は不明である。

引用・参考文献

木田　清　1999a　『松任市北安田キタドウダ遺跡Ⅱ・北安田北遺跡Ⅴ』 松任市教育委員会
木田　清　1999b　『松任市横江荘遺跡』 松任市教育委員会
田嶋　明人　1988　「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム　北陸の古代土器研究の現状と課題』
手取川七ヶ用水誌編纂室　1982　『手取川七ヶ用水誌』上巻　手取川七ヶ用水土地改良区
徳野　裕子　2009　『徳用クヤダ遺跡Ⅰ』 野々市町教育委員会
独立行政法人文化財研究所　奈良文化財研究所　2003　『古代の官衙遺跡Ⅰ遺構編』
北陸中世考古学研究会　1999　『中世北陸の石文化Ⅰ』
安　英樹ほか　1994　『第6章　第1節石鏃雑考』『石川県考古資料調査・集成事業報告書　農耕具』石川考古学研究会
湯尻　修平ほか　2006　「末松遺跡」（財）石川県埋蔵文化財センター
吉岡　康暢　1994　「中世須恵器の研究」 吉川弘文館
吉岡　康暢ほか　1996　『東大寺領横江庄遺跡Ⅱ』 松任市教育委員会
吉田　淳　2001　『御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群』 野々市町教育委員会



第9図　出土遺物実測図(S＝1/3)



第10図　出土遺物実測図(S＝1/3)

第２表　土器観察表

No.	遺構	地区	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土色調	胎土	焼成	調整	備考等	実測番号
1	番匠	A17 (1)	P3 (SB1)	須恵器	壺	16.1	16.1	3.8	内：灰色 外：灰色	0.5～1mm砂粒、雲母含	良	内：ロクロナデ ロクロナデ後ナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り	口：1/12 底：10/12	35
2	番匠	A17 (1)	P4 (SB1)	須恵器	無台杯	12.0	8.0	3.4	内：灰白色 外：灰白色	赤色粒、雲母少し	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ヘラ切り	口：4/12 底：6/12	底部以外ロクロ成形 底部周縁に指ナデ痕
3	番匠	A18 (9)	P8 (SB2)	土師器	甕	20.0	―	15.0	内：にぶい黄橙色 外：黒褐色	砂粒多、2mm礫少し	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：1/12	胴部外面ヨコ方向ヘラ削り
4	番匠	A18 (9)	P9 (SB2)	須恵器	壺	―	12.4	15.1	内：灰白色 外：灰白色	雲母含	不良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	底：1/12	胴部
5	番匠	A18 (1)	P11 (SB2)	須恵器	無台杯	13.3	8.4	3.3	内：灰白色 外：灰白色	雲母含	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り後ナデ	口：6/12	底部内面ヨコ記号 底ヘラ切り
6	番匠	A18 (1)	P11 (SB2)	須恵器	無台杯	―	7.8	1.6	内：灰白色 外：灰白色	雲母含	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り	口：1/12	底部片
7	番匠	A18 (9)	P14 (SB2)	須恵器	無台杯	―	7.3	1.5	内：灰色 外：灰色	雲母少し	良	内：ロクロナデ、回転ヘラ切り後ナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り	底：1/12	194
8	番匠	A13 (1)	P15	須恵器	無台杯	―	8.0	1.5	内：灰色 外：灰色	雲母含	良	内：ロクロナデ、回転ヘラ切り後ナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り後ナデ	底：1/12	198
9	番匠	A19 (1)	P20	須恵器	無台杯	―	7.2	1.5	内：灰色 外：灰色	雲母含	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り後ナデ	底：1/12	211
10	番匠	A20 (9)	P40	須恵器	無台杯	―	8.0	1.6	内：灰色 外：灰色	雲母含	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り後ナデ	底：2/12	241
11	番匠	A18 (9) SK1 A18 (1)	南東部	須恵器	壺	―	16.5	1.5	内：灰色 外：灰色	雲母	良	内：ロクロナデ、ヨコナデ後タテナデ 外：ロクロナデ	底：1/12	外面自然釉・焼成
12	番匠	A18 (9)	SK	南東部	壺	―	―	13.0	内：灰色 外：灰色、灰白色	雲、雲母多い	良	内：ヨコナデ、ナデ、タテナデ 外：ロクロナデ、タテナデ	口：不明	外面自然釉・焼成
13	番匠	A18 (9)	SK	土師器	鉢	―	―	11.0	内：浅黄橙色 外：浅黄橙色	赤色粒、雲母粒少し	良	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	口：6/12	34
14	番匠	A18 (9)	SK	白磁	鉢	16.0	―	12.4	内：浅黄橙色 外：浅黄橙色	雲母	良	内：回転 (回白色) 外：回転 (回白色)	口：2/12	中国 底部内面輪状ナデ	36
15	番匠	A18 (9)	SK	白磁	碗	(15.6)	―	(5.1)	内：灰白色 外：灰白色	雲母	良	内：施釉 (回白色一部オリーブ色) 外：施釉 (回白色一部オリーブ色)	口：1/12	中国	35
16	番匠	A22 (1)	SB9	土師器	鉢	16.9	7.4	12.4	内：にぶい橙色 外：にぶい橙色	0.5～1mm砂礫、雲母、赤色粒	良	内：ヤ磨 外：ヤ磨	口：2/12		310
17	番匠	A13 (9)	SD5	土師器	鉢	7.8	―	5.1	内：にぶい黄橙色 外：にぶい黄橙色	雲母粒小、赤色粒	良	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ	口：1/12		356
18	番匠	A13 (1)	SD6	白磁	碗	―	―	(3.6)	内：灰白色 外：オリーブ色	雲母	良	内：施釉 (透明) 外：施釉 (透明)	口：1/12	中国 底ヘラ切り	357
19	番匠	A13 (1)	SD6	土師器	鉢	13.6	8.6	5.4	内：にぶい黄橙色 外：にぶい黄橙色、黒灰色	雲母粒、黒土塊	良	内：ヨコナデ、ナデ 外：ヤ磨	口：2/12		31
20	番匠	A14 (9)	SD13	須恵器	坏	16.6	―	3.0	内：灰白色 外：灰白色	雲母含	やや良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：1/12		359
21	番匠	A22 (1)	SD14	須恵器	無台杯	11.9	6.2	3.4	内：灰白色 外：灰色	砂粒多い	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：1/12	底部内面重ね	310
22	番匠	A22 (1) A23 (9)	SD18 SD21重合部	須恵器	無台杯	13.3	8.1	3.5	内：灰色 外：灰色	雲色粒、砂粒	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ヘラ切り	口：4/12 底：6/12	底部内面重ね 口縁部重ね焼き痕	310
23	番匠	A22 (1) A23 (9)	SD18 SD21重合部	須恵器	無台杯	12.1	7.8	3.35	内：灰色 外：黄灰色	雲少し、砂粒多	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り	口：6/12	底部内面重ね焼き痕	310
24	番匠	A23 (1)	SD14	須恵器	無台杯	14.9	―	3.9	内：灰色 外：灰色	砂粒多い、雲母含有	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：1/12	底部重ね焼き痕	313
25	番匠	A23 (1)	SD14	須恵器	坏	12.2	―	3.5	内：灰色 外：灰色	雲少し	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：1/12	底部重ね焼き痕	312
26	番匠	A23 (1)	SD14	須恵器	無台杯	―	(10.4)	15.4	内：灰色 外：灰色	雲少し	良	内：ロクロナデ、回転ヘラ切り後ナデ 外：ロクロナデ	底：6/6		314
27	番匠	A23 (1)	SD14	須恵器	壺	16.2	―	15.3	内：灰色 外：灰色	0.5～1mm砂礫、雲母含	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：1/12		317
28	番匠	A23 (9)	SD21重合部	須恵器	無台杯	13.4	8.7	3.4	内：灰白色 外：灰白色	砂粒少量	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	底：1/12	底部内面重ね	328
29	番匠	A23	SD21	須恵器	無台杯	13.3	8.3	3.65	内：灰色 外：灰白色	雲、砂粒多い、雲母	やや不良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ	口：5/12 底：完存	底部重ね焼き痕	318
30	番匠	A23	SD21	須恵器	無台杯	13.2	8.3	3.3	内：灰白色 外：灰白色	砂粒	やや不良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：2/12	底部重ね焼き痕	329
31	番匠	A23 (9)	SD21	須恵器	無台杯	13.9	8.5	3.5	内：灰色 外：灰色	0.5～1mm砂礫、雲母含	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り	完形	底部内面重ね 口縁部重ね焼き痕	330
32	番匠	A23	SD21 SD25	須恵器	有台杯	14.3	―	15.35	内：灰色 外：灰色	砂粒多い	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：1/12		332
33	番匠	A23 (9)	SD21	須恵器	無台杯	8.4	(2.85)	3.4	内：灰色 外：灰色	雲砂粒少し	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り	底：5/12		333
34	番匠	A23 (9)	SD21	須恵器	無台杯	―	7.6	(1.85)	内：灰色 外：灰色	雲少し	良	内：ロクロナデ、回転ヘラ切り後ナデ 外：ロクロナデ	底：5/12		335
35	番匠	A23	SD21 SD21重合部	須恵器	有台杯	―	16.1	(1.75)	内：灰色 外：灰色	雲、砂粒少し	良	内：ロクロナデ、回転ヘラ切り、高台貼り付け後ナデ 外：ロクロナデ	底：9/12		352
36	番匠	A23	SD22	須恵器	壺	15.6	―	15.0	内：灰色 外：灰色	砂粒少量	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：6/12	焼成前	351
37	番匠	A23	SD22	須恵器	壺	14.9	―	12.0	内：灰色 外：灰色	砂粒多い	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：6/12	外面焼成	350
38	番匠	A23	SD23	須恵器	無台杯	12.4	7.4	3.6	内：黒色 外：にぶい黄橙色	0.5～1mm砂粒少し、雲母含	良	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ	底：4/12	内面	353
39	番匠	A23	SD23	土師器	鉢	8.8	(1.85)	4.0	内：にぶい黄橙色 外：にぶい黄橙色	雲砂、赤色粒、雲母	良	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ケズリ	底：4/12		356
40	番匠	A23 (9)	SD23重合部	土師器	鉢	―	5.2	3.6	内：黒色 外：黒褐色	雲砂粒、雲母多い、赤色粒	良	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	底：2/12	内面	357
41	番匠	A25	SD23	須恵器	有台杯	13.9	8.3	4.0	内：灰色 外：灰色	雲砂多い	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：4/12 底：5/12		355
42	番匠	A21	遺構検出	須恵器	壺	17.0	―	15.5	内：灰色 外：灰色	砂粒	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：1/12		342
43	番匠	A13	遺構検出	須恵器	壺	15.9	―	15.9	内：灰色 外：灰色	雲砂粒	不良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口：1/12		340
44	番匠	A14 (1)	南壁 (P1.1)	須恵器	無台杯	―	8.0	3.5	内：灰色 外：灰色	雲砂粒、白色粒多い	不良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り	底：1/12		338
45	番匠	A20	SD02	須恵器	無台杯	―	10.6	(1.35)	内：灰色 外：灰色	雲砂粒	良	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、回転ヘラ切り後ナデ	底：2/12		342
46	番匠 遺構検出	A1 (9)	P9	鍛冶	鉢	―	―	13.0	内：にぶい黄橙色 外：黒灰色	2mm前後の粒状多い、雲砂粒、焼礫多い	良	内：ナデ 外：鉄滓	小片		346

第３表　石製品観察表

No.	遺構	地区	出土地点	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	材質	備考	実測番号
61	番匠	A21 (9)	北壁側溝	打製石斧	15.9	10.1	3.5	460.6	輝灰岩製品		417
62	番匠	A22 (9)	SD1	打製石斧	22.3	11.9	3.7	862.8	輝灰岩製品	打痕1	418
63	番匠	A22 (1)	SD18	打製石斧	21.4	8.7	3.9	726.5	輝灰岩製品		419
64	番匠	A20 (9)	SD18下層	打製石斧	(18.7)	9.1	2.1	(565.5)	輝灰岩製品	打痕4	420
65	番匠	A22 (1)	SD12	打製石斧	(14.7)	10.5	2.7	(386.5)	輝灰岩製品		429
66	番匠	A22 (9)	SD1	打製石斧	17.3	9.5	3.8	650.0	輝灰岩製品	打痕1	421
67	番匠	A22 (1)	SD2	打製石斧	(14.0)	(10.2)	2.3	(394.4)	輝灰岩製品	打痕5	424
68	番匠	A22 (9)	SD22	打製石斧	(12.4)	7.1	3.1	246.9	輝灰岩製品	打痕5	428
69	番匠	A20 (9)	P10	打製石斧	(8.6)	8.4	1.4	(51.6)	輝灰岩製品		430
70	番匠	A19	遺構検出	砥石	5.44	3.65	3.50	(18.4)	輝灰岩製品	敲痕	431

第４章　番匠鎌田遺跡

第１節　概　　要

調査区は、番匠遺跡の約55m北東方向に位置し、その間は鞍部が広がる。延長約76m、面積700㎡を対象とする。

区割りは、番匠遺跡（第３章第１節）を踏襲し、グリッド番号は１～７区が対象となる。基本層序は、上層から①耕土（約60㎝）、②遺物包含層（約20～30㎝）、③地山となる。地表の標高は17.0～17.2mを測る。地山は標高が16.1～16.3mを測り、南西方（３～７区）に向かうにつれ、若干高くなる状況であり、黄褐色シルトを主体とする。５・６区間は、粗い褐色砂質土が厚く堆積しており、これは、耕土直下から切り込む河川の蛇行縁辺部に伴うものと推定でき、地山が削平を受けているものである。

番匠遺跡に比べ、遺構・遺物ともに希薄であり、遺構は１～３区にかけて散見できる小穴、４区以降は、河川や風倒木痕等の撹乱が占める。遺物は珠洲焼、土師器等が極少量出土している。

第２節　遺　　構

1. 柱　　列（第12図）

１・２区に位置する。①P6～9、②P10・11・13、③P26・29でそれぞれ構成する柱列を復元した。柱穴は、直径・深さ共に20～30㎝を測る小規模なものであり、柱間距離は、①・②が2.5m、③が3mを測る。③はP25を構成員とすれば、２間×１間以上の建物跡が復元可能であり、また、P14～18で構成する３間×１間以上のものも指摘する。主軸方位は、②・③が北東－南西と同じになるが、全体的な統一はみられない。

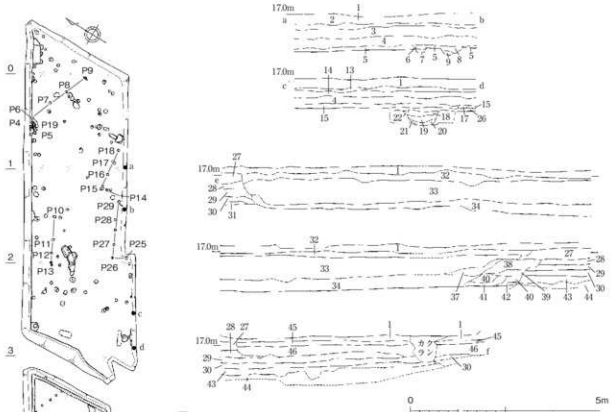
2. 小　　穴（第12図）

１区に位置するP4・5・19は重複しており、P5・19の小規模ピットが新しい。P4内部には小礫が多量に入り、縄文土器、土師器が少量出土している。

２・３区に位置するP22～24は、深さ20～30㎝とあまり深くないが、形状から風倒木痕の可能性がある。遺物は出土していない。

第３節　遺　　物

縄文土器や珠洲焼がごく少量出土した。遺構出土土器のほとんどは縄文土器で、珠洲焼は包含層から出土している。第９図46はP4から出土し、横方向に平行する２条の沈線と２条の弧線文を施し、刺突文を充填している。下方にやや斜めの沈線が確認できるので、上下対称の弧線文が描かれていると考えられる。時期は後・晩期。P30からも無文の粗製深鉢と考えられる土器が出土しているほか、条痕が施された土器片も出土している。

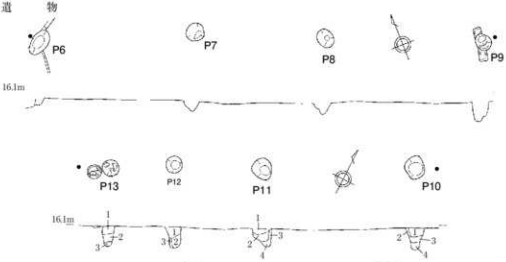


2～7区

1　灰黄褐色シルト(10YR4/2)
2　にぶい黄色粘質土(2.5Y6/4) 1層土多量混
3　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 2層土多量混
4　黒色シルト(10YR2/1) 23層土多量混
5　黒褐色シルト(10YR3/1) 4・23層土多量混
6　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 4・23層土多量混
7　暗灰黄色シルト(2.5Y5/2) 4層土少量・23層土多量混
8　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 4・23層土少量・9層土多量混
9　暗灰黄色シルト(2.5Y5/2) 8層土少量・23層土多量混
10　黒色シルト(10YR2/1)
11　黒色シルト(10YR2/1) 10層土より粘性あり
12　にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3) 13層土多量混
13　にぶい黄色粘質土(2.5Y6/4) 1層土多量混
14　灰黄褐色粘質土(10YR4/2) 13層土多量混
15　黒色シルト(10YR2/1) 23層土多量混
16　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 5・23層土多量混
17　黒色シルト(10YR2/1) 26層土少量混
18　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 26層土少量混
19　暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
20　暗灰黄色シルト(2.5Y5/2) 25層土少量混
21　暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
22　黒褐色シルト(10YR3/1) 23層土少量混
23　黄褐色シルト(2.5Y5/3) 15・26層土少量混
24　黄褐色シルト(2.5Y5/3) 24層土より砂質に近い
25　暗灰黄色シルト(2.5Y5/2) やや砂質
26　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 15層土多量・23層土少量混
27　灰黄褐色粘質土(10YR4/2) 黄褐色土多量混
28　黒色シルト(10YR2/1)
29　黒色シルト(10YR2/1) 4層土と同じ
30　黒色シルト(10YR2/1) 15層土と同じ、31層土多量混
31　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 26層土と同じ、23・30層土多量混
32　褐色砂質土(10YR4/4) 1層土多量混
33　褐色砂質土(10YR4/4) 34層土少量混
34　オリーブ黒色粘土(5Y3/1) 灰色シルト多量混
35　灰オリーブ色シルト(5Y5/2) 灰色シルト多量混
36　礫層　48層土多量混
37　暗灰黄色砂質シルト(2.5Y5/2) 鉄分多量混、褐色シルトとの互層
38　黄灰色シルト(2.5Y5/1) 鉄分多量混
39　黄灰色シルト(2.5Y4/1) 38層土多量混
40　黒色シルト(10YR1.7/1)
41　黒色シルト(10YR1.7/1) もろい
42　灰オリーブ色砂質シルト(7.5Y5/2)
43　暗灰黄色砂質土(5Y5/2) 鉄分多量混、褐色シルトとの互層
44　褐色砂質土(10YR4/4) 鉄分多量混、43層土との境は非常に硬い
45　暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2) 14層土と同じ
46　黒褐色シルト(2.5Y3/2)
47　黒褐色シルト(2.5Y3/2) 28層土多量混
48　灰色砂質土(5Y4/1) 礫多量混

0　20m

第11図　番匠鎌田遺跡調査区全体図(S＝1/400)・遺構図(S＝1/100)

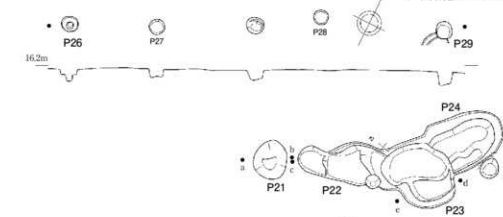


P10
1　黒色シルト(10YR2/1) 地山少量・3層土多量混
2　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山多量混
3　黒褐色シルト(10YR3/1) 地山少量混
4　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山多量混

P11
1　黒褐色シルト(10YR3/1) 地山少量混
2　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山少量混
3　黄褐色シルト(2.5Y5/3)
4　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山少量混

P12
1　黒色シルト(10YR2/1) 2層土多量・地山少量混
2　黒褐色シルト(10YR3/1) 地山少量混
3　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山多量混

P13
1　黒色シルト(10YR2/1) 2層土・地山少量混
2　黒褐色シルト(10YR3/1) 1層土・地山少量混
3　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 2層土少量混



P21
1　黒褐色シルト(10YR3/1) 地山少量混
2　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 4層土・鉄分少量混
3　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山多量・1層土多量混
4　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山・鉄分少量混。2層土より淡い。

P4・6・19
1　黒褐色シルト(10YR3/2) 2層土多量・炭少量混
2　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山多量混
3　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山少量・1層土多量混
4　黄灰色シルト(2.5Y4/1)
5　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山少量混
6　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 2層土多量混
7　暗灰黄色シルト(2.5Y4/2)
8　灰黄褐色シルト(10YR4/2)
9　暗灰黄色シルト(2.5Y3/2) 地山・鉄分多量混
10　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 12層土少量混
11　灰黄褐色シルト(10YR4/2)
12　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山・鉄分少量混
13　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 10・11層土より明るい。地山極少量混
14　黒褐色シルト(10YR3/1) 黒色シルト・地山多量混
15　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 砂質に近い。黒色シルト少量混
16　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山多量混

P22・23
1　暗灰黄色シルト(2.5Y4/2) 炭・鉄分少量混
2　黒褐色シルト(10YR3/2) 地山・鉄分少量混
3　暗灰黄色シルト(2.5Y4/2) 地山・鉄分多量混
4　黒褐色シルト(10YR3/2) 地山・鉄分やや多量混
5　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山・鉄分やや多量混
6　黒褐色シルト(10YR3/1) 地山・鉄分やや多量混
7　暗灰黄色シルト(2.5Y4/2) 地山・黒色ブロック少量混

P23・24
1　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山・鉄分やや多量・炭少量混
2　暗灰黄色シルト(2.5Y4/2) 地山・鉄分多量混
3　黒褐色シルト(10YR3/2) 地山少量混
4　黒褐色シルト(10YR3/2) 地山・鉄分やや多量混
5　灰黄褐色シルト(10YR4/2) 地山・鉄分やや多量混

0　3m

第12図　遺構図(S＝1/3)

第５章　ま　と　め

番匠遺跡、番匠鎌田遺跡の主体は、古代・中世であることが分かった。古代以前の様相については、番匠遺跡において、弥生土器小片や打製石斧、剥片（3点）が、SD21（22・23区）及び近接するSX2等から出土しており、明確な遺構は確認できていないが、該期の集落域が存在する可能性がある。

主体となる古代・中世においては、9世紀第2・3四半期に出現→廃絶→12世紀後半～13世紀前半に再形成→廃絶となる。以下、番匠遺跡を中心に、概観してまとめにかえる。

古代　田嶋編年Ⅴ期（9世紀第2・3四半期）

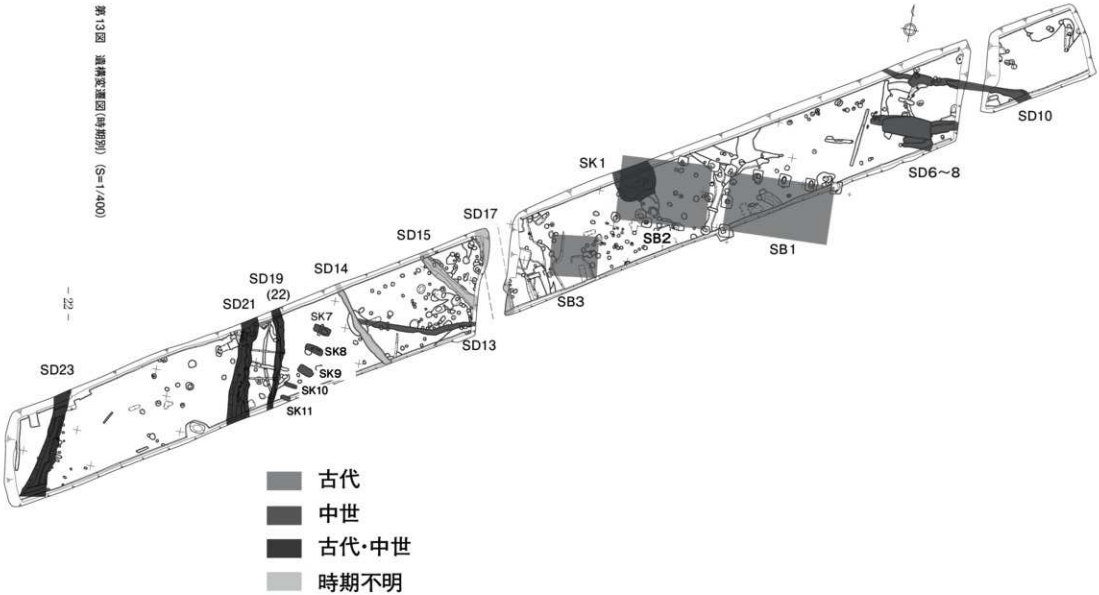
掘立柱建物や区画溝から、集落域を形成し始める時期である。主な遺構としては、掘立柱建物（SB1～3）、南北溝（SD19（22）・21・23）がある。SB1・2は、桁行方向に直列に配置された形をとる東西棟建物である。建物の併存関係については、出土遺物からSB1に比較的古い要素がみられることや2棟の配置関係（建物間の距離が約190cmと近接する）、柱穴の規模や形状（規則性をもつ掘方や柱痕部の変化）等から、中心軸を揃えて、SB1からSB2への建て替えが考えられる。また、SB3との関係であるが、建物配置を考慮すると、SB1（主屋）とSB3（倉庫）のセット関係が成り立つ。また、これらは南面すると考えられることから、SB2にセットとなる建物等が南側に展開するものと推定できる。

区画溝を伴い規則的に掘立柱建物を配置している点や建物柱穴の形状・規模などから、公的性格をもつ集落の可能性がある。北方約1.5kmに位置する国指定史跡東大寺領横江荘遺跡荘家跡との関係が指摘でき、上荒屋遺跡・中屋サワ遺跡・福塔カワラケダ遺跡と一体的に条理地割に沿い、1町四方を基本としたブロックエリアに庄所、倉院等の建物群を配置しており、その盛期がⅤ期に該当するもので、当遺跡の活動期と一致する。SD21・23を区画の基幹（条理を意識したものか）とし、SB1～3を規則的に配置する等、遺跡の様相に類似点がみうけられる。一方で、出土遺物については、墨書土器や硯（転用硯1点）等の遺物総量が少ない点があり、これらの相違が、遺跡の性格付けに関係するものと考えられる。

中世　吉岡編年Ⅰ期（12世紀後半～）～13世紀前半に帰属する。

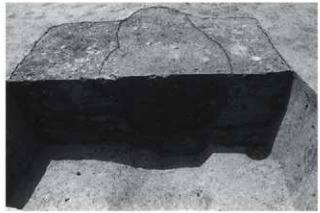
掘立柱建物、井戸跡、区画溝から、集落域を形成する時期である。主な遺構としては、井戸跡（SK1）、東西溝（SD6～8・10・13）、南北溝（SD21・23）、土坑（SK7～11）がある。古代に機能していた溝を再利用する等、基本的には古代の区画を踏襲していることやSK1の規模からは、古代と同様な公的機関の存在を想起させる。掘立柱建物は復元できていないが、中世に属する可能性が高い柱穴群がSK1の南側とSD13の北部に集中しており、建物域の存在が推定される。古代から断続的に機能するSD21を区画の基幹とし、小規模なSD10・13により南北の小区画を形成したと考えられる。SD21の西方約20mに位置するSD23は、集落域の西端部を画す溝と考えられ、その間に空閑地を設け、それに対し、SD21は居住域を画す溝として機能していたと考えられる。また、SD21と一体的に、その東部に位置するSK7～11が遮蔽施設（門等）として存在していた可能性がある。

番匠鎌田遺跡における小穴群についても、規模や包含層遺物から、中世に属する集落域が推定可能である。番匠遺跡と並存もしくは中世前半期に廃絶する集落域が、鞍部及び河川を挟んだ東方（番匠鎌田遺跡）に展開していった可能性もある。



第13図　遺構変遷図(時期別)(S=1/400)

SB1　完掘状況(東から)



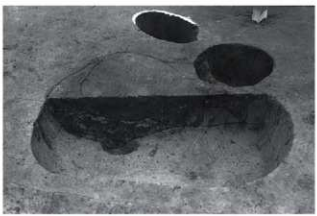
SB1-P3　土層断面(北から)

SB1-P5　土層断面(北から)

SB1-P6　土層断面(西から)

SB2　完掘状況(東から)

SB2-P8　土層断面(北から)



SB2-P10　土層断面(東から)

SB2-P11　土層断面・遺物出土状況(南から)

SB3　完掘状況（東から）

SK1　土層断面（南から）

SD21　土層断面（南から）

SD21　遺物出土状況（東から）

SD21　完掘状況（北から）

SD23　完掘状況（北から）

13・14区　完掘状況（東から）

15区　完掘状況（東から）

16～20区　完掘状況(西から)

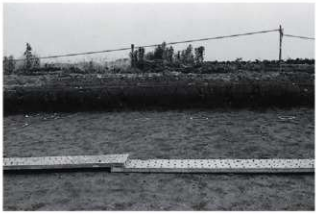
20～22区　完掘状況(西から)

20～22区　完掘状況(東から)

23～25区　完掘状況(西から)

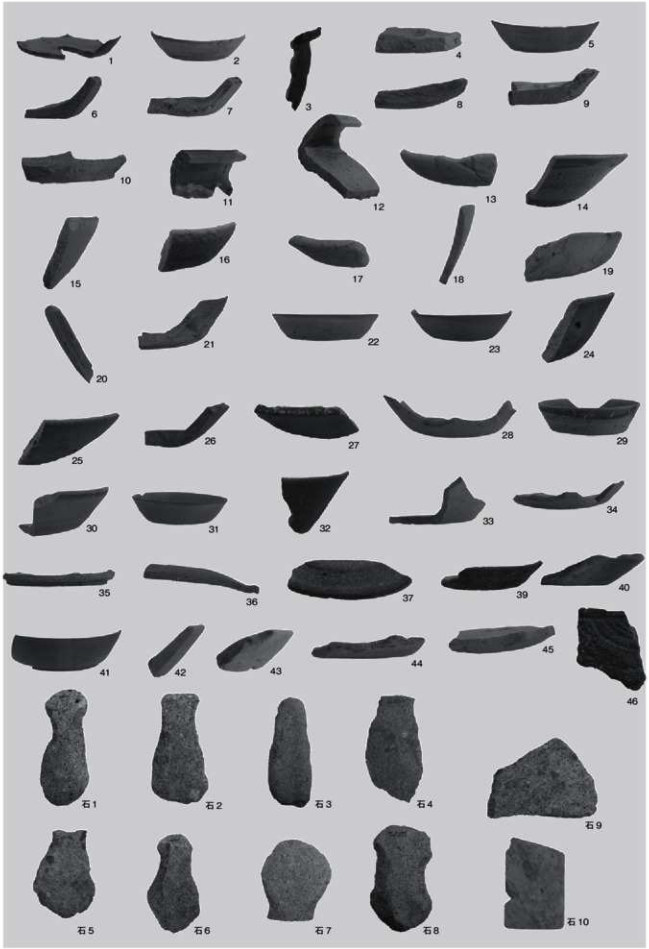
番匠鎌田遺跡　1～3区　完掘状況(北東から)

番匠鎌田遺跡　4～7区　完掘状況(西から)



番匠鎌田遺跡　2区　土層断面(北から)

番匠鎌田遺跡　4～7区　土層断面(北東から)


1
2
4
5
6
7
3
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
39
40
41
42
43
44
45
46
石1
石2
石3
石4
石9
石5
石6
石7
石8
石10

報告書抄録

ふりがな	はくさんし　ばんじょういせき　ばんじょうかまだいせき
書名	白山市　番匠遺跡・番匠鎌田遺跡
副書名	北陸新幹線建設(鉄道高架橋工事)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	宮川勝次、森由佳
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18-1　TEL 076-229-4477　FAX 076-229-1336
発行年月日	2011年3月31日

所収遺跡名(ふりがな)	所在地(ふりがな)	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
番匠遺跡(ばんじょういせき)	石川県(いしかわけん) 白山市(はくさんし)	17210		36°32′3″	136°35′0″	20080627～20081010	1,300㎡	記録保存調査
番匠鎌田遺跡(ばんじょうかまだいせき)	番匠町(ばんじょうまち)			36°32′5″	136°35′4″	20080428～20080701	700㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
番匠遺跡	集落	平安時代 鎌倉時代	掘立柱建物3 井戸1、溝13	須恵器、土師器 珠洲焼、白磁	平安時代の掘立柱建物(東西棟)を検出。
番匠鎌田遺跡	集落	中世	小穴	土師器、珠洲焼	中世集落の広がりを推定。

要約	平安時代は、番匠遺跡において掘立柱建物、溝等の遺構を確認した。掘立柱建物が南北及び東西に走る区画溝により計画的に配置されており、柱穴の規模・形状等からも公的な性格が推定される。 鎌倉時代は、番匠遺跡において井戸跡1基、溝等の遺構を確認した。平安時代に機能していた区画溝を踏襲し、井戸跡に伴う建物域や空閑地等を設けていたと考えられる。また、井戸跡の規模や出土遺物等から、平安時代と同様に地域の中核的な集落として存在していた可能性がある。番匠鎌田遺跡においても、該期の集落域の広がりが考えられる。

白山市　番匠遺跡・番匠鎌田遺跡

発行日　平成23(2011)年3月31日

発行者　石川県教育委員会
〒920-8575　石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話　076-225-1842(文化財課)

財団法人　石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地1
電話　076-229-4477
E-mail address　mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷　株式会社中川印刷